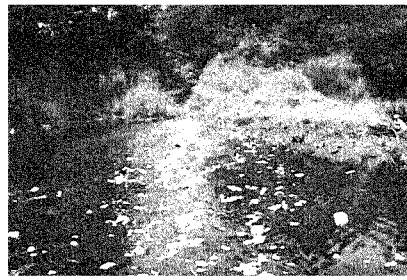


話水に流してもゴミは 水に流さないでください



都留市内の川は、最近特にゴミによるよごれがひどいようです。よく話は水に流しましょうと言いますが、ゴミは絶対に水に流さないようにしましょう。

川よごれがひどいので、「明るい社会を作る郡内推進協議会」の人たちにより、七月二十二日（日）の早朝から禾生、落合橋付近の五ヶ堰取入口のゴミの除去作業がおこなわれました。

ゴミの山は多数のダンブカーによって大月都留衛生組合の焼却場に運ばれましたが、多量のため川原で重油を使って一部を焼却したほどでした。

美しい川は、人々の心をなごま

せ、楽しい憩いの場を与えてくれます。

魚が泳ぎほたるの飛びかう環境は、一人ひとりの自然を愛する心が作っていきます。

美しい自然は

川を愛する一人ひとりの心から

家中川の清掃

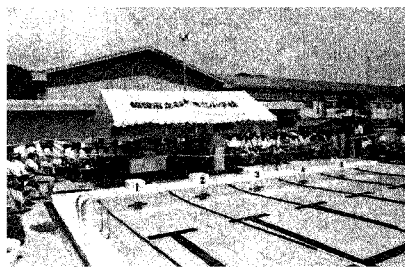
「川をきれいにする県民運動」が県下一斉に実施され、その一環として、七月二十八日（土）深田から四日市場公民館裏までの清掃を実施しました。やけつくような酷暑のなか、市職員が各課より動員され川岸の草刈りや、ゴミ等の取除き作業で、見ちがえるような川に生まれ変わりました。

ゴミのたまっているところには



八番線、自転車、テレビ用有線コード、家庭用電気製品等が心ない人のために投げ捨てられ、これにゴミがつかえ、まさに死の川という状態でした。

きれいな川をよみがえらすため市民の皆さんのご協力を切に願います。



谷村第二小学校に 待望のプール完成

長い歳月、児童・父兄が要請をしてきたプール（25m5コース）が8月8日に竣工し、市長をはじめ関係者多数参列のもと盛大に竣工式を挙行了しました。

なお、待ちきれない喜びの児童が一齐に泳ぐ姿に父兄が眼がしらすおさえる風景が見られ「これで安全で楽しい夏休みを過ごすことができる」と長年にわたった悲願が実った喜びを分かちあっています。

近世（10）



度量衡の制度を統一することは戦国大名にとっても大切な施策であったにちがいない。このため武田信玄が制度化したという甲州秤、または信玄秤ともいわれる特別の法があつて、京秤とやらんで使われたから一般にはわかたなう。

そのことから一升は鉄判（かなばん）といふ、京秤の三升にあたるとしながらも、京秤三升五合を大秤ともいわれたことは国中地方では大正年代までも通用したことはよく知られている。

この他に郡内秤というのが郡内では使われていた。甲州秤は京秤の二升五合にあたり小山田氏の定めるところであつたといわれるが秤目の制度は各領地ごとにまちまちであり、郡内地方には京秤二升五合をもって大秤一升としその四分の一を一杯（一配）とし、一杯の二分の一を「なから」という秤法があつたがこれなどもどうしてこのようなのかができたかわからない。

大名領国の形成の過程において雑多な秤が使われていたのがだんだんに整理されて流通経済の拡大から、共通の秤の使われることがのぞまれることは自然のことであつた。

全国で最大の市場であつた京都

で使われた商業が普及して豊臣秀吉が一四、八センチメートル平方深さ八、一センチメートルの京秤を採用したから、これによって江戸幕府も一六六九（寛文九）年からこれのみを公定の秤に指定して現在までも引きつがれてきた。

郡内秤について

- 一、当郡百姓方通用の秤、京秤五合入の秤ならびに京秤一斗入候を斗秤と名付け四ツ入と申す秤と名付け四ツ入と申候、右三品は甲斐国武田信玄公御より御免なし下され候、刻寸法まで下しおかれ候、もつとも四ツ入りをば一盃秤と名づけ恐れながら武田御家紋の割菱を写し候よし申し伝へ候、秋元但馬守様御領地に相なり平左衛門にお尋ね御座候につき右の趣き申しあげ奉候ところ先規の通り、秤こしらへ候よう仰せつけられ一斗入を斗秤と名づけ、四ツ入を一杯と申し候。
- 右秤相こしらへ候印いたし郡内へ売渡し来り申候（南都留郡誌）

こ、にいう四ツ入りとは京秤四升入りのことであつたかとおもわれる。このようにそれと地のに量目のちがつた秤があつたことは、日常生活のうちでもおもしろくこうした現品は現在では使われていないとおもいますが、この遺品があつたとすれば歴史を物語るものとして大切にしておきたい。

羽田富士男